

(主催) 大分県・大分県社会福祉協議会・大分県介護支援専門員協会

平成28年度大分県介護支援専門員実務研修 実習指導者養成研修

模擬ケアプラン作成実習に おける留意点

平成28年12月2日・12月22日

特定非営利活動法人 大分県介護支援専門員協会
介護予防相談センター富士見が丘
社会福祉士・主任介護支援専門員
古賀 周一郎

実習の種類

① 模擬ケアプラン作成

実際に要介護状態にある方(実習協力者)の協力を得て、
インタビュー、アセスメント、ケアプラン(模擬ケアプラン)作
成といったケアマネジメントプロセスを実践。

② 見学・観察実習

「実習受入事業所」の実習指導者の活動している場面
等を見学・観察して、ケアマネジメントプロセスの実際を
直接的に学ぶ。

ケアマネジメント業務の主な内容

- ① インテーク、アセスメント、居宅サービス計画作成
- ② サービス事業者との連絡・調整
- ③ サービスの提供状況の確認
- ④ 給付管理

模擬ケアプラン作成実習にて行う

2

実習対象事例（実習協力者）の選定

- 新規の利用者もしくはケアプランの変更が必要となった利用者
- 「1人暮らしの事例」「認知症の人の事例」「入退院/入退所の事例」「インフォーマルサービス活用事例」「ターミナルケアの事例」「地域の介護保険サービス以外の多様な社会資源との連携のある事例」などを積極的に取り入れる。

3

模擬ケアプラン作成実習 において取り組む書類

- ①社会資源調査票
- ②基本情報に関する項目（フェイスシート等）
- ③課題分析表（アセスメントシート）
- ④整理総括表
- ⑤居宅サービス計画書（1）（2）
- ⑥週間サービス計画表
- ⑦サービス利用票
- ・・・など

4

気に留めておくこと

書類は義務であるが…
書類を作成することが
実習の真の目的ではない

「書き方指導実習」
にならないように！

5

実習の目的（介護支援専門員実務研修テキスト第12章 抜粋）

ケアマネジメントの実務を行う環境に身をおいて、座学や演習だけでは実感できなかったことを実践的に学ぶための重要な過程です。

これまでに学んできた知識・技術や基本的な考え方が実際に要介護高齢者のケアマネジメントの場面でどのように活かされているのかを体感する機会です。

実習を通じて、ケアマネジメントの実践にあたっての留意点や学習課題を認識し、後期課程の研修でさらに理解を深めることが目的となります。

また、介護支援専門員が利用者の実際の生活の状況を把握・分析し、利用者・家族の望む暮らしの実現に向けて、間接的支援者として介護給付の根拠を明らかにした支援を行う専門職であるということを実感する機会として必須のものです。

6

模擬ケアプラン作成実習の目的

実習現場でのケアマネジメントプロセスの経験を通じて、実践にあたっての留意点や今後の学習課題を認識する。

7

直接援助を行う職種と 相談援助を行う職種との 役割や視点の違い

共通点 = 対人援助の専門職

相違点 = アセスメントの視点が異なる

引用：介護支援専門員実務研修テキスト 第3章
相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎 8

介護支援専門員は利用者を「生活者」としてとらえ、生活全般をアセスメントする視点を持っています。

利用者のニーズと様々な社会資源とをつなげる機能をもつことが介護支援専門員の特徴です。

引用：介護支援専門員実務研修テキスト 第3章
相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎 9

社会資源調査

実習協力者が住んでいる地域の社会資源について、フォーマル・インフォーマル含めて調査を行う。

〈注意点〉

- ・模擬ケアプラン作成前に行う
- ・実習協力者が、現に利用しているサービスや事業所にとらわれず、中立的に行うことが望ましい

10

インテーク

実習生が実習協力者と初めて面談を行う場面は、実習協力者へ、実習内容を説明し、承諾書等を交わす時かと思われる。

実習指導を行う、主任介護支援専門員が、どこまで同行を行うか、明確な規定は無いが、実習協力者や家族が安心感を持って、実習生を受け入れてもらえるために、実習指導者はできる限りの配慮を行う。

11

アセスメント

目的：

利用者が自立した日常生活を営む上で
解決すべき課題（ニーズ）を把握すること。

運営基準第13条第6号

- ①情報を収集し、②分析、整理することにより、
- ③利用者にどのような支援を提供すればよいのか導き出していくこと

12

協働作業としてのアセスメント（抜粋）

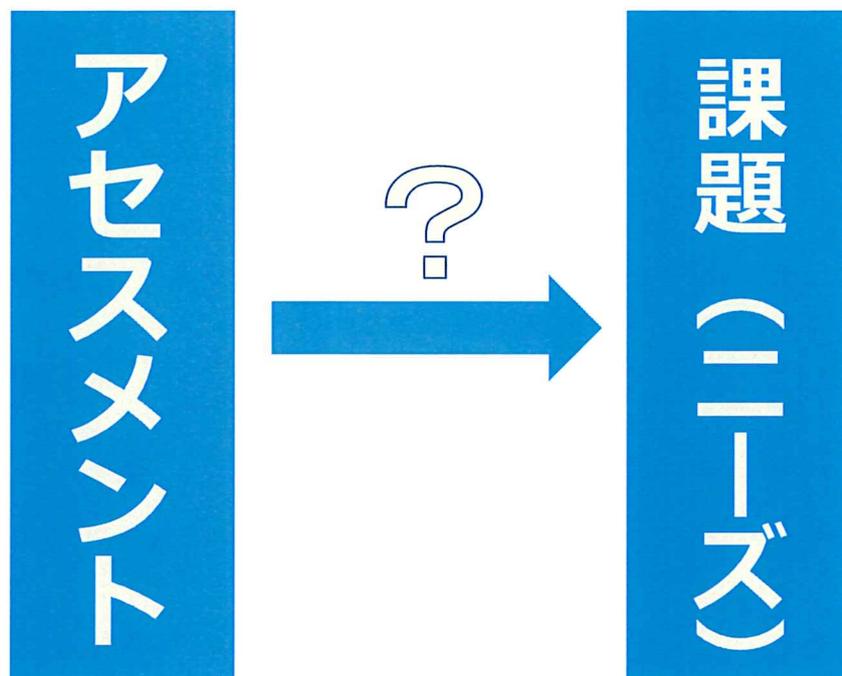
アセスメントは、介護支援専門員と利用者が協働で行う作業です。

介護保険を利用して自立した生活を目指すのは利用者自身であり、利用者自身が現状を理解し（自己覚知）、自分の望む暮らしのあり方を決定します。

引用：介護支援専門員実務研修テキスト 第7章
ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術

13

課題が導き出された 根拠が読み取れるか？



16

アセスメントの4つの視点

- ① **原因** 「何が原因で」
- ② **状態** 「どのような状態になり」
- ③ **問題** 「どのような問題がおきてる？」
- ④ **意欲** 「どうしたいと思っている？」

17

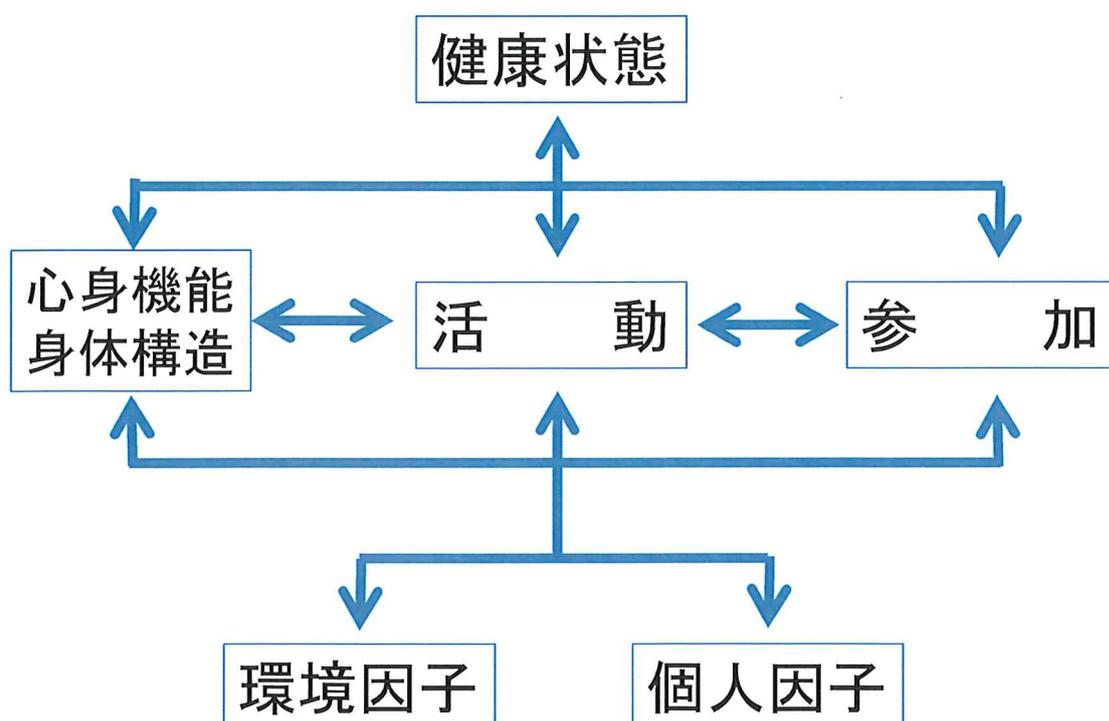
①情報を収集・・・「いつ」「どこで」「どのような状況で」「どれくらいの介助が必要なのか」などの詳細情報が必要

実際にしていること、能力的にできることに食い違いがないか確認。

②分析・・・「介護等が必要となっている要因や背景」「それによってどのような困りごとが発生しているのか」「本人はどうしたいと思っているのか」「改善の可能性」などの視点が大切。
I C F の枠組みを用いて整理することも大切。

18

I C F の構成要素間の相互作用



19

課題整理総括表

利用者の状態を把握し、情報の整理・分析を通じてニーズを導き出した過程について、サービス担当者会議や地域ケア会議といった多職種協働の場面で、適切にその情報を共有するため「課題整理総括表」があります。

引用：介護支援専門員実務研修テキスト 第7章
ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術